

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

令和五年四月度 入賞句一覧

投句数 千百五十二句



特選

遠藤 幹郎 選

しだれ梅空から下るシャンデリア

大垣市

岡部 もな（小四）

しだれ梅の咲いているさまが、あざやかに表現できました。「空から下るシャンデリア」という表現が、この句を引き立てています。しだれ梅が、高いところから地面に向かってしだれ咲き誇っているさまを美しく表現できました。観察の効いた一句です。

鳥たちの歌のアラーム春の朝

加茂郡川辺町

池田 徹晶（中三）

春の朝は、「春眠暁を覚えず・・・」の詩のように、なかなか目が覚めないものです。そんな朝、鳥のさえずる声が、目覚まし時計となつて、起床をしきりに促されたよと詠い上げたところがすばらしいです。「鳥たちの歌のアラーム（目覚まし時計）」がいいですね。

タブレット床に落として春の雷

大垣市

岡田 りちか（小五）

このごろ、学校ではタブレットをよく使いますね。そのタブレットを机上から床に落としてしまったのですね。だれしも「しまった!」と思うでしょう。その瞬間の心のうちを「春の雷」という季語を使って表現したところがいいと思います。夏の雷鳴ほどではないものの、春先に聞く雷鳴も心動かされるものです。

秀逸

春ぼう子どろでよごれてせんたつき

大垣市

かとう てんま（小四）

しおひがり海でいっぱいおよぎたい

大垣市

日比 海斗（小四）

はるやすみワクワクするなクラスがえ

大垣市

小川 華歩（小四）

花吹雪風に乗ってどこまでも

大垣市

生駒 恋渚（小五）

庭の中藤のかおりがたちこめる

大垣市

前田 瑤実（小五）

春の虹私もいつかがやく日

大垣市

今村 結愛（小五）

おひなさんどんなときでもすましがお

大垣市

セストリック 衣莉（小五）

クラスがえ桜の花につつまれて

大垣市

南瀬 杏奈（小五）

つくしたち空にむかつてせのびする

大垣市

いとう そら（小六）

歩くたびビートを刻む霜柱

大垣市

多賀 千夏（中三）

入選

ちるさくらからかぜでひらひらちつてきた
たんぼぼだわたげがかぜでとばされる
春風がズボンの下をすりぬける
しゃぼんだまたくさんとぼしやねとどく
はなびらのシートの上にすわってる
つみたてのいちごの香りむねいっぱい
バレンタインくつばこの中チョコがない
春の海毎日びかぴか光ってる
桜さき風といっしょに散っていく
もうすぐだ春の足音きこえるぞ
さくらちるきれいなさくらめにしみる
桜の木新入生をおでむかえ
はつぎくらいちばん最初に見にいくぞ
花粉症やっぱりマスクは手放せない
入学式みんなの顔がかわってる
前を見て明日へ飛び立つ雀の子
切り株で一人本読む春の宵
桜の木下にピンクのカーペット
春の朝進級したよ五年生
春の朝耳をすませば鳥の声

大垣市

竹内 瑚々菜(小四)

大垣市

山田 はるあ(小四)

大垣市

谷本 ゆいな(小三)

大垣市

増田 愛璃(小四)

大垣市

山田 侑実(小五)

大垣市

牛田 千絢(小五)

大垣市

遠藤 愛來(小五)

大垣市

川瀬 愛満(小五)

大垣市

陸田 篤希(小五)

大垣市

安田 蒼生(小五)

大垣市

川島 羽流(小六)

大垣市

ささき はると(小六)

大垣市

池田 夢杏(小六)

加茂郡川辺町

藤井 結乃(中三)

加茂郡川辺町

山岡 恒心(中三)

加茂郡川辺町

渡辺 かずは(中三)

加茂郡川辺町

渡辺 かずは(中三)

加茂郡川辺町

木下 瑛介(中三)

大垣市

王 梓墨(小五)

大垣市

三和 叶夢(小五)

選者吟

春潮に洗はれてゐる朱の鳥居

幹 郎



小中学生の部